

平成16年度 中城湾港泡瀬地区 環境保全・創造検討委員会
第3回委員会資料

(前回委員会における課題とその対応)

課 題	対 応
<p>1. 人工海浜専門部会報告について</p> <p>①地形変化のシミュレーション結果等、他の部会（海藻草類専門部会）における検討資料とのデータの一貫性を図る必要がある。（古川委員）</p>	<p>人工海浜専門部会におけるデータと、他部会におけるデータは、一貫性を図り資料作成した。</p>
<p>②人工海浜専門部会とその他の部会（利用面）との調整が必要であり、今後、調整するための合同開催などを行う必要がある。（小濱委員）</p>	<p>今後の専門部会のあり方については、事務局で検討中であり、資料-6に17年度以降の専門部会の取り組み（案）を示す。（資料-6参照）</p>
<p>2. 海藻草類専門部会報告について</p> <p>①海草移植が成功したというデータを示してほしい。（仲座委員）</p>	<p>今は経過を観察しており、その結果を報告している。</p>
<p>②St.10Hの枠の様なうまくいった写真だけを載せると誤解を生む可能性がある。移植した海草が完全に消失した枠の写真も提示してほしい。（仲座委員）</p>	<p>St.2I、St.10Hについて移植直後から詳細観察を行っている枠であり、移植海草の生残率が良かったから掲載しているわけではない。</p>
<p>③移植した被度50%以上の海草がどうなったのか。その面積はどのくらいあるのか。（仲座委員）</p>	<p>被度50%以上のエリアから採取しているが、エリア内には濃淡があり、移植した海藻類（移植ブロック）はすべて50%以上であったわけではない。それを格子状に配置して移植しているため移植直後の被度は2m枠全体では30%であった。移植した株がコドラート内でどのように変化してきたかは、枠内の海藻類の分布状況に示した。（参考資料-4参照）</p>

指摘事項	対応
<p>3. 比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備部会報告について</p> <p>①比屋根湿地に毎年飛来する野鳥は50種程度あるが、それはエサとなる小魚等が、潮の満ち引きで流入しているためであると思われる。人工島の野鳥園整備でもこのような環境整備の検討をしてもらいたい。(赤嶺委員)</p>	<p>比屋根湿地の環境改善の方策の検討に際しては、現状の生物生息環境の保全・再生を考慮した環境整備を行っていく。</p> <p>人工島の野鳥園整備については、別途の協議の場で検討することとしたい。ご意見は其中で十分配慮した形で検討していきたい。</p>
<p>②干潟のような緩勾配の自然海岸と、人工の直立護岸の前面では潮流や浄化のメカニズムが異なる。これらの違いを考慮しながら、今後の海岸整備の検討に際しては、有機物を出さない工夫の上で有機物を貯めないことに留意してもらいたい。(古川委員)</p>	<p>本整備計画では、背後陸域からの有機物を軽減するよう、下水道接続率の向上や、湿地の浄化機能が向上するような、管理を含めた整備検討を行うこととしている。</p> <p>海岸部については、有機物たまらないような工夫し、雨水地下浸透水が滲出するような護岸構造を考慮した環境整備を今後検討していく。</p>